

顕現後第6主日特祷

永遠にいます全能の神よ、み子イエス・キリストは病気の人を癒し、健やかな命を回復されました。憐れみをもってこの世の悩みを顧み、癒しのみ力によって、人々と国々を健全なものとしてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 シラ書（集会の書） 15章 11-20 節

11 「わたしが罪を犯したのは主のせいだ」と言うな。主が、御自分の嫌うことをなさるはずがない。12 「主がわたしを迷わせたのだ」と言うな。主は、罪人には用がないのだから。13 主は、忌まわしいことをすべて憎まれる。それらは、主を畏れる人にも好ましくない。14 主が初めに人間を造られたとき、自分で判断する力をお与えになった。15 その意志さえあれば、お前は掟を守り、しかも快く忠実にそれを行うことができる。16 主は、お前の前に火と水を置かれた。手を差し伸べて、欲しい方を取ればよい。17 人間の前には、生と死が置かれている。望んで選んだ道が、彼に与えられる。18 主の知恵は豊かであり、主の力は強く、すべてを見通される。19 主は、御自分を畏れる人たちに目を注がれる。人間の行いはすべて主に知られている。20 主は、不信仰であれとは、だれにも命じたことはなく、罪を犯すことを、許されたこともなかった。

詩 編 第119篇 9~16 節

9 若い人の歩む道を清く保つものは何か // それは神のみ言葉
10 神よ、あなたの勧めからそれないように // 心を尽くしてあなたを求め
11 罪を犯すことのないように // わたしは仰せを心に抱く
12 主よ、あなたはほむべき方 // わたしにおきてを示してください
13 あなたの示すすべての審きを // わたしは宣べ伝え
14 あなたの諭しの道を // 宝のように喜び受ける
15 あなたの定めを思い巡らし // あなたの道に目を注ぐ
16 あなたのおきてを喜びとし // あなたのみに言葉を忘れない

使徒書 コリントの信徒への手紙一 3章 1-9 節

1 兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語りことができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。2 わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にする

ことができなかつたからです。いや、今でもできません。3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。4 ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。5 アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。8 植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることとなります。9 わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

福音書 マタイによる福音書 5章 21-24, 27-30, 33-37 節

21 「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。22 しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。23 だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、24 その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。

27 「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。28 しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。29 もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。30 もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」

33 「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。34 しかし、わたしは言うておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。35 地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。36 また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。37 あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」